

授業科目名	助産学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。必要に応じてレポート課題を課す。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目 受胎調節実地指導員認定申請に係る科目		
キーワード	助産, 助産師, 助産の歴史・文化, 助産の専門職性, 助産師と法律, 助産師教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	助産の意義及び助産師の役割と責務や, 助産の歴史と母子を取りまく社会環境の変遷を通じた助産の概念, 専門性, 職業倫理, 助産教育の変遷さらには助産診断の概念や考え方について教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産の概念</li> <li>2. 助産に関係する概念</li> <li>3. 助産師の職制と業務</li> <li>4. 助産学を支える理論</li> <li>5. 母子保健の動向</li> <li>6. 助産の歴史</li> <li>7. 助産師教育の変遷</li> <li>8. 世界の母子保健の動向と課題</li> </ol>		
成績評価の方法	別途定める。		
テキスト	助産学講座1・9, 医学書院 助産師業務要覧, 最新版 看護六法, 最新版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	性と生殖の形態と機能 I		
担当教員氏名(助手氏名)	津森 登志子・吉田 信隆[非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4523研究室 (津森)		
オフィスアワー	特に定めない (事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目 受胎調節実地指導員認定申請に係る科目		
キーワード	生殖器の発生・形態・構造, 生殖機能, 性周期, ライフサイクルに関連した疾患, 生殖器別疾患		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	助産に必要となる性と生殖の形態, 機能や生理, 女性, 男性の生殖の機能と構造, 女性のライフステージ各期における健康問題について教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖器の発生・形態</li> <li>2. 男性・女性の生殖器の構造と機能, 性周期と調節機能</li> <li>3. 先天異常</li> <li>4. 5. ライフサイクル各期に起こる主な疾患</li> <li>6. 性感染症とその治療</li> <li>7. 婦人科悪性腫瘍</li> <li>8. 性の行動と機能 / 女性のライフサイクル各期における健康課題</li> </ol>		
成績評価の方法	評価対象は定期試験を100%とする。定期試験は, テキストやノートの持込不可とし, 時間は60分で実施する。		
テキスト	助産学講座2, 医学書院最新産科学 (正常・異常編) 文光堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	基礎となる重要な科目である。複数のテキストをしっかりと活用しながら学習を進めてほしい。		

授業科目名	性と生殖の形態と機能Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	島谷 康司・上田 克憲 [非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4429研究室 (島谷)		
オフィスアワー	特に定めない (事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	妊娠の成立・維持・適応, 胎児の成長と発達, 先天奇形, 胎児の造血・循環・呼吸・栄養・排泄・性ホルモンの母児相関, 胎児付属物の構造と機能		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	妊娠期にある女性及び胎児, 胎児付属物の成長, 発達について教授する。また, 妊娠経過と産科学的な診断について教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の成立・維持</li> <li>2. 胎児の成長と発育</li> <li>3. 胎児の成長と発育</li> <li>4. 胎児付属物の構造と機能</li> <li>5-8. 妊娠経過と産科学的診断</li> </ol>		
成績評価の方法	評価対象は定期試験を100%とする。定期試験は, テキストやノートの持込不可とし, 時間は60分で実施する。		
テキスト	助産学講座6, 医学書院最新産科学 (正常・異常編), 文光堂		
参考文献	必要に応じて資料を作成し, 配布いたします。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	新生児・乳幼児学		
担当教員氏名(助手氏名)	林 優子		
研究室の場所	三原キャンパス 2502研究室		
オフィスアワー	月曜5限		
授業の形式・方式	対面授業。事前に各学生に課題を提出する。事前に学習し、病態生理や診断治療を総合的に学習し、説明できるようにしておく。質疑応答の中で、その内容を深めていく。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	出生, 新生児, 乳幼児, 成長・発育・発達, 低出生体重, 先天性疾患, 発達障害		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	新生児から乳幼児の生理的な身体的, 神経学的変化や発達経過について総合的に学び, 適切な観察と対応について理解する。低出生体重児を含む新生児および乳幼児期に起こりやすい疾患の病態生理がわかった上で, その予防対策と発症時の処置について理解する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児学の適応生理 (正常経過と管理: 体温調節 呼吸循環)</li> <li>2. 新生児学の適応生理 (正常経過と管理: 新生児黄疸 消化管 免疫)</li> <li>3. 新生児のフィジカルイグザミネーション 感染予防 新生児マスキング</li> <li>4. 新生児の異常とその対応 (呼吸循環障害 蘇生法 中枢神経障害)</li> <li>5. 新生児の異常とその対応 (低出生体重児の病態生理)</li> <li>6. 新生児の異常とその対応 (先天性疾患の病態生理)</li> <li>7. 乳幼児の発達と保健衛生</li> <li>8. 乳幼児期疾患・発達障害の病態と対策</li> </ol>		
成績評価の方法	評価対象は定期試験を100%とする。定期試験は, テキストやノートの持込不可とし, 時間は60分で実施する。		
テキスト	新生児学入門第4版 仁志田博司 医学書院 助産学講座〈第8巻〉助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期 横尾京子 医学書院		
参考文献	日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社 <+9784758310697+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	質疑応答形式で授業を進めるため, 前もって教科書を読んで内容を把握しておくこと。		

授業科目名	助産診断・技術学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 里織・島谷 康司・金井 秀作		
研究室の場所	三原キャンパス 4426研究室(小山), 4429研究室(島谷), 4421研究室(金井)		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。単元によっては演習を一部組み込む。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	妊娠期, 助産診断, 妊娠, 胎児		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	妊娠期の正常な経過から逸脱までの診断とケアに必要な知識を教授する。また, 妊婦の健康上の問題とニーズを理解し, 対象を身体的, 精神的, 社会的側面から全人的に把握することで, 妊娠期の安全性と快適性を確保した支援について教授する。		
授業の内容	<p>妊娠期における助産診断の視点  妊娠経過と助産診断  妊娠期のケアの実践: 保健指導に必要なコミュニケーション技術の理解  正常経過からの逸脱に対する助産師断とケア  妊娠期における助産診断とケア: 妊婦の骨盤ケア, 妊娠期における骨盤底筋群の役割,  妊婦の姿勢と日常生活動作  妊婦の栄養摂取と食生活  助産診断演習</p>		
成績評価の方法	筆記試験		
テキスト	助産学講座6・7 医学書院, 最新産科学(正常編) 文光堂, 病気がみえる vol.10 メディックメディア, 今日の助産 南江堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	妊娠期の助産診断の基礎的な科目である。ひとつひとつ理解を深めながら, 学習してほしい。		

授業科目名	助産診断・技術学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宏子・吉田 信隆 [非常勤講師] ・兒玉 安史 [非常勤講師] ・西村 裕[非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4422研究室 (藤井)		
オフィスアワー	特に定めない (事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	分娩の生理, 分娩の三要素, 分娩機転, 分娩の臨床経過, 分娩期の助産診断とケア, 分娩介助の基礎技術, 産痛緩和		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	分娩開始の診断から分娩の進行診断, 産婦と胎児の適応診断, 正常分娩介助技術と多様な分娩方法に対応し, 安全安楽な分娩を支援できるための知識と技術について教授する。また, 正常分娩逸脱を早期に発見し, 臨時応急の処置を取るための知識と技術について教授する。		
授業の内容	1. 助産診断とは 2. 分娩とは 3. 分娩の3要素 4. 分娩機転5分娩の臨床経過(1) 6. 分娩の臨床経過(2) 7. 分娩の母児に及ぼす影響 8. 分娩期とは 分娩期における助産診断の焦点 9. 正常な分娩経過をたどる産婦の助産診断とケア(1) 10. 正常な分娩経過をたどる産婦の助産診断とケア(2) 11. 正常な分娩経過をたどる産婦の助産診断とケア(3) 12. アクティブパース 13. 帝王切開時の助産診断とケア(1) 14. 帝王切開時の助産診断とケア(2) 15. 分娩期に用いられる基礎技術(分娩開始・破水・分娩進行) 16. 分娩介助にかかわる基礎技術(1) 17. 分娩介助にかかわる基礎技術(2) 18. 分娩介助にかかわる基礎技術(3) 19. 産痛緩和 20. ME機器の診断法と演習 21. 会陰縫合の基礎 22. 臨時応急処置(止血・縫合等) 23. 臨時応急処置(新生児の蘇生①) 24. 臨時応急処置(新生児の蘇生②) 25. 周産期における薬理学 26. 周産期における薬理学 27. 周産期における薬理学 28. 分娩期における助産診断過程の演習 29. 分娩期における助産診断過程の演習 30. 分娩期における助産診断過程の演習		
成績評価の方法	定期試験にて評価する。		
テキスト	助産学講座3・7・8, 医学書院 今日の助産, 南江堂 最新産科学(正常・異常編), 文光堂 マタニティ診断ガイドブック, 医学書院 周産期ケアマニュアル, 医学芸術社 新生児蘇生法テキスト, メジカルビュー社 周産期超音波のみかた, メディカ出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子・藤巻 康一郎		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室(郷原), 4427研究室(藤巻)		
オフィスアワー	特に設定しない。事前に担当教員に連絡すること。		
授業の形式・方式	対面授業。単元によっては演習を一部組み込む。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	産褥期, 新生児期, 乳幼児期		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	産褥期及び新生児期の助産診断やケアに必要な基本的知識及び方法論について教授する。また、母乳哺育支援を中心とした育児支援、愛着形成への支援、産褥期や新生児期に起こりやすい異常について教授する。 乳幼児の健康診査および保健指導について教授する。		
授業の内容	産褥期とは 産褥期の精神疾患 褥婦のケア 褥婦(ハイリスク)のケア 新生児期・乳児期の生理 新生児・乳児のケア 産褥期の保健指導 新生児期の保健指導 産褥期・新生児期の助産診断 乳幼児の健康診査・保健指導		
成績評価の方法	筆記試験, 課題レポートにて評価する。		
テキスト	助産学講座4・5・7・8, 医学書院 最新産科学(正常・異常編), 文光堂 今日の助産, 南江堂マタニティ診断ガイドブック, 医学書院 病気がみえる, Vol.10(産科)よくわかる母乳育児, へるす出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	母性看護学に関する知識・技術が習得されていることを前提に講義します。		

授業科目名	助産診断演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 里織		
研究室の場所	三原キャンパス 4426研究室		
オフィスアワー	特に定めない(要事前連絡)		
授業の形式・方式	演習。適宜グループワークも組み込む。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目, 受胎調節実地指導員認定申請に係る科目		
キーワード	妊娠期, 産褥期, 新生児期, 助産技術, 保健指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	妊娠期, 産褥期, 新生児期のケアを円滑に行うために必要な基本的助産技術として, 妊娠期のME機器の操作, 各期の保健指導, 集団教育としての出産準備教室, 家族計画指導等について学修する。		
授業の内容	1. 助産診断と保健指導 2~4. 妊婦の健康診査と新生児の沐浴・諸計測 5・6. 妊娠期の保健指導7・8. 妊娠期の保健指導: 発表 9・10. 産褥期・新生児期の保健指導 11・12. 産褥期・新生児期の保健指導: 発表 13. 妊婦の健康診査 14・15. 新生児の沐浴・諸計測		
成績評価の方法	助産技術, 課題レポート, プレゼンテーションにより総合的に評価する。		
テキスト	助産学講座6・7 医学書院, 周産期ケアマニュアル 医学芸術社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産診断演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宏子		
研究室の場所	三原キャンパス 4422研究室		
オフィスアワー	特に定めない(要事前連絡)		
授業の形式・方式	演習。適宜グループワークを組み込む。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	分娩期, 技術, 保健指導		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	分娩期の母子とその家族に対する助産過程展開方法を理解し, 安全安楽な分娩介助の基礎技術について学修する。		
授業の内容	分娩介助法 分娩期の保健指導		
成績評価の方法	演習の過程・分娩技術習得に係る到達度・保健指導の成果を総合的に評価する。		
テキスト	助産学講座5・7, 医学書院 マタニティ診断ガイドブック, 医学書院 周産期ケアマニュアル, 医学芸術社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	主体的な学習を希望する。		

授業科目名	周産期ハイリスクケア		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宏子・上田 克憲 [非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4422研究室 (藤井)		
オフィスアワー	特に定めない (事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	不妊症, ハイリスク妊娠, 妊娠高血圧症候群, 子宮外妊娠, 子宮内発育遅延, 絨毛性疾患, 分娩期の異常, 産道・娩出力・胎児の位置・胎児付属物の異常, 前置胎盤, 常位胎盤早期剥離, 産褥期の異常など		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	妊娠(胎児), 分娩の異常と診断, 治療について学び, ハイリスク状態にある対象のケアについて教授する。		
授業の内容	妊娠期の異常 分娩期の異常 産褥期の異常 ハイリスク妊娠と助産ケア 心理社会的ハイリスク妊産婦と家族へのケア		
成績評価の方法	定期試験で評価する。		
テキスト	助産学講座6・7, 医学書院最新産科学(正常編・異常編), 文光堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産学研究		
担当教員氏名(助手氏名)	小野 武也・吉川 ひろみ・古屋 泉		
研究室の場所	三原キャンパス 4431研究室(小野), 3404研究室(吉川), 4418研究室(古屋)		
オフィスアワー	水曜日12:00-13:00		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	研究, 助産学, 研究方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	研究の基本的及び実践能力の向上を目的に, EBMに基づいた助産実践を実証するための研究の方法や倫理について教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の目的と意義(研究倫理を含む)</li> <li>2. 論文を探して読んでみよう</li> <li>3. 研究計画と仮説検定の考え方</li> <li>4. 量的研究とは</li> <li>5. 質的研究とは</li> <li>6. 研究発表を企画する</li> <li>7. 研究発表会(1)</li> <li>8. 研究発表会(2)</li> </ol>		
成績評価の方法	出席状況, 研究発表内容を総合的に評価する		
テキスト	助産学講座1, 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	テキストを精読して, 授業に臨むこと。		

授業科目名	地域母子保健		
担当教員氏名(助手氏名)	水馬 朋子・安武 繁・西田 啓子 [非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 3417研究室(水馬), 3510研究室(安武)		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。必要に応じてレポート課題を実施する。学生は授業に出席、レポート提出、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	母子保健, 母子保健行政, 疫学, 虐待対策, 子育てネットワーク, 開業助産師		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会の多様なニーズに対応できるよう、他職種と連携、協働しながら地域の母子保健を推進するための能力を養う。また、ヘルスプロモーションの理念に基づき、地域の母子に対する助産ケア、母子保健行政のあり方を教授する。		
授業の内容	母子保健の概念 地域母子保健の現状と動向 母子保健行政 日本の周産期医療システム 母子保健制度と関係法規 母子保健活動の基礎理論 母子保健活動の展開方法 助産師と母子保健活動		
成績評価の方法	評価対象は、定期試験、レポート(プレゼンテーション)とする。評価割合は、定期試験80%、レポート20%とする。定期試験は、テキストやノートの持込不可とし、時間は60分で実施する。		
テキスト	助産学講座9, 医学書院, わが国の母子保健(最新版)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産管理		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宏子・西田 啓子 [非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4422研究室 (藤井)		
オフィスアワー	特に定めない (事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体とするが演習形式も取り入れて行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	助産管理, 社会保障, 助産所管理・運営, 産科病棟管理, 産科外来管理, 助産師外来, 医療事故, 災害援助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	助産所や産科病棟等の運営, 管理を安全に行うための知識や技術, 周産期における医療の安全確保と医療事故への対応について教授する。また, 関連する社会保障制度, 法的責任についても教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産管理の基本</li> <li>2. 関連法規と助産師の義務・責任</li> <li>3. 周産期におけるリスクマネジメント</li> <li>4. 〃</li> <li>5. 病産院における助産管理</li> <li>6. 助産所における助産管理</li> <li>7. 判例にみる助産師の役割</li> <li>8. 災害と助産師</li> </ol>		
成績評価の方法	定期試験 (60%) とレポート (40%) で評価する。		
テキスト	助産学講座10, 医学書院 助産師業務要覧 (最新版) 看護六法 (最新版)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子・藤井 宏子・小山 里織・(鳩野 愛)		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室(郷原), 4422研究室(藤井), 4426研究室(小山), 4315研究室(鳩野)		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	2単位 (90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	助産診断・技術学 I の単位を修得していること		
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目 受胎調節実地指導員認定申請に係る科目		
キーワード	妊婦, 家族, 妊娠期の診断, 保健指導, 月経異常		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	妊婦と家族の健康状態に関する診断とケアについて学修する。また, 月経異常を持つ女性に対する支援について学修する。		
授業の内容	<p>下記の目標に基づいて実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦健康診査の意義について述べることができる。</li> <li>2. 妊娠各期に行われる継続した保健指導の意義について理解できる。</li> <li>3. 妊婦の身体的・心理的・社会的側面についてアセスメントできる。</li> <li>4. 胎児の発育および健康状態についてアセスメントできる。</li> <li>5. 妊娠経過が分娩や産褥に及ぼす影響について理解できる。</li> <li>6. 妊娠各期の健康診査に必要な技術を修得できる。</li> <li>7. 妊娠各期の基本的な保健指導について計画し, 展開することができる。</li> <li>8. 妊婦とその家族の個別性に合わせた保健指導を展開することができる。</li> <li>9. 母性や父性を高めるための援助について考察し, 保健指導に反映することができる。</li> <li>10. 妊婦の社会資源について理解し, 活用できる。</li> <li>11. 外来通院する女性の保健指導の必要性について理解できる。</li> <li>12. 対象の人権を尊重し, 擁護できる。</li> </ol>		
成績評価の方法	実習目標到達度, 実習記録, 実習中の積極的な態度等を総合して行う。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子・藤井 宏子・小山 里織・(鳩野 愛)		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室(郷原), 4422研究室(藤井), 4426研究室(小山), 4315研究室(鳩野)		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	11単位 (495時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	助産診断・技術学Ⅱおよび助産診断・技術学Ⅲの単位を修得していること		
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目, 受胎調節実地指導員認定申請科目		
キーワード	分娩期診断・ケア, 産褥期診断・ケア, 新生児期診断・ケア, 保健指導, 家族計画, 乳児		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	分娩期及び産褥期, 新生児期の診断とケアや家族計画の指導など女性へのケアについて学修する。		
授業の内容	<p>下記の目標に基づいて実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期・産褥期および新生児期にある対象に, 助産診断・ケアができる。</li> <li>2. 分娩期・産褥期にある母子と家族に, 保健指導ができる。</li> <li>3. 対象に家族計画指導ができる。</li> <li>4. 異常発生時の判断および対応が理解できる。</li> <li>5. 対象の人権を尊重し, 擁護できる。</li> <li>6. 母子保健活動における助産師の役割と他職種との協働や連携の在り方が理解できる。</li> <li>7. 母子保健活動における社会資源の活用ができる。</li> </ol>		
成績評価の方法	実習目標到達度, 実習記録, 実習中の積極的な態度等を総合して行う。		
テキスト	特に指定しない		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	助産実習の中でも, 特に単位数の大きい科目である。自己の健康管理に留意し, 感染予防を徹底すること。		

授業科目名	助産実習Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子・藤井 宏子・小山 里織・(鳩野 愛)		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室(郷原), 4422研究室(藤井), 4426研究室(小山), 4315研究室(鳩野)		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	集団指導, 健康教育		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	母科学級など健康教室の計画, 実施, 評価を通し, 女性のケアや母子保健について学修する。		
授業の内容	<p>下記の目標に基づいて実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期から育児期における親性の発達過程を理解できる。</li> <li>2. 健康教室の意義について述べることができる。</li> <li>3. グループ活動により, 健康教室を計画することができる。</li> <li>4. 施設の担当者と調整と連携をとりながら, 健康教室の準備を進めることができる。</li> <li>5. 健康教室を通して妊婦や家族に産前準備・産後準備への支援ができる。</li> <li>6. 健康教室について実習指導者とともに評価することができる。</li> <li>7. 妊娠期から育児期における地域の社会資源が活用できる。</li> <li>8. 地域母子保健や子育て支援に携わる保健医療福祉関係者や他職種との連携・協働について 理解できる。</li> <li>9. 対象の人権を尊重し, 擁護できる。</li> </ol>		
成績評価の方法	実習目標到達度, 実習記録, 実習中の積極的な態度等を総合して行う。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	助産実習Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子・藤井 宏子・小山 里織・(鳩野 愛)		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室(郷原), 4422研究室(藤井), 4426研究室(小山), 4315研究室(鳩野)		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数(時間数)	1単位 (45時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	助産所, 助産所助産師の活動		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	助産所における妊娠, 分娩, 新生児期の各期の診断とケア及び助産所の管理について学修する。		
授業の内容	<p>下記の目標に基づいて実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開業助産師の母子保健活動の実際と役割について述べることができる。</li> <li>2. 助産所における妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期の対象へのケアを学ぶ。</li> <li>3. 助産所の業務管理や運営について理解できる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉関係者との連携について理解できる。</li> <li>5. 対象の人権を尊重し, 擁護できる。</li> </ol>		
成績評価の方法	実習目標到達度, 実習記録, 実習中の積極的な態度等を総合して行う。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	助産管理の講義資料を持参すること。		

授業科目名	生殖医療と生命倫理		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 里織・江島 洋介・中塚 幹也[非常勤講師]		
研究室の場所	三原キャンパス 4426研究室(小山), 広島キャンパス 1526研究室(江島)		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業, ディベート		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目, 受胎調節実地指導員認定申請科目		
キーワード	生殖医療, 倫理, 自己決定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	助産領域及びその近接領域における倫理問題を理解し, 性と生殖(出生前診断, 生殖補助医療)に関する倫理問題のアセスメントを行うため, 必要な知識, 技術について教授する。		
授業の内容	1. 遺伝学と遺伝性疾患 2.        " 3. 生殖医療と生命倫理 4.        " 5. 出生前診断および不妊に関する助産ケア 6. 助産師と倫理 7. 助産師と倫理 8. 助産師と倫理		
成績評価の方法	レポート内容, 授業時の発言の貢献度		
テキスト	助産学講座1・2, 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	リプロダクティブヘルスと家族計画		
担当教員氏名(助手氏名)	小山 里織		
研究室の場所	三原キャンパス 4426研究室		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主体として行うが演習形式も取り入れて行う。必要に応じてレポート課題を実施する。学生は授業に出席し、レポートを提出し、学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目 受胎調節実地指導員認定申請に係る科目		
キーワード	人間の性, 性行動, ライフサイクル, セクシュアリティ, リプロダクティブヘルス・ライツ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	リプロダクティブヘルスの概念に基づき、妊娠、出産、育児に影響を及ぼす思春期の性教育について教授する。また、マタニティサイクルにある女性に対する家族計画のあり方、受胎調節法について教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の性</li> <li>2. リプロダクティブヘルス/ライツについて</li> <li>3. 思春期の成長発達と健康逸脱予測に関する診断とケア</li> <li>4. 成熟期の成長発達と健康逸脱予測に関する診断とケア</li> <li>5. 更年期の成長発達と健康逸脱予測に関する診断とケア</li> <li>6. 老年期の成長発達と健康逸脱予測に関する診断とケア</li> <li>7. 家族計画と受胎調節法</li> <li>8. 家族計画指導の実際</li> </ol>		
成績評価の方法	レポート及び発表内容(発言の献身度)		
テキスト	助産学講座2・3・5 医学書院, 家族計画指導の実際 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	周産期支援活動論		
担当教員氏名(助手氏名)	郷原 寛子・長谷川 純		
研究室の場所	三原キャンパス 4419研究室(郷原), 3517研究室(長谷川)		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業と演習。授業日程に従って、講義形式を主体として行うが演習形式も取り入れて行う。必要に応じてレポート課題を実施する。学生は授業に出席し、レポートを提出し、学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	保健行動, グループダイナミクス, 教育技術, 保健指導技術, アサーティブなコミュニケーションスキル, ディベート		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	周産期にある母子の教育, 指導, 相談活動について, 基本理論と方法を教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アサーティブなコミュニケーションスキルの基本と演習 (1)</li> <li>2. アサーティブなコミュニケーションスキルの基本と演習 (2)</li> <li>3. アサーティブなコミュニケーションスキルの基本と演習 (3)</li> <li>4. アサーティブなコミュニケーションスキルの基本と演習 (4)</li> <li>5. 周産期にある対象者支援の基礎理論</li> <li>6. 周産期にある対象者支援の技術—集団指導</li> <li>7. 周産期にある対象者支援の活動の実際</li> <li>8. 女性の支援者としての活動展開の課題</li> </ol>		
成績評価の方法	演習参加状況, レポート(プレゼンテーション)とし, 総合的に評価する。		
テキスト	助産学講座5, 医学書院平木典子, アサーション・トレーニング—さわやかな自己表現のために—, 日本・精神技術研究所平木典子ほか, ナースのためのアサーション, 金子書房		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業開始までにテキスト「アサーション・トレーニング—さわやかな自己表現のために—」を読んでおくこと。		

授業科目名	総合ヘルスケア論		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井宏子・栢下淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4422研究室(藤井), 広島キャンパス1535研究室(栢下)		
オフィスアワー	特に定めない(事前に要予約)		
授業の形式・方式	対面授業と演習。授業日程に従って講義形式を主体として行うが演習形式も取り入れて行う。必要に応じてレポート課題を実施する。学生は授業に出席し、レポートを提出し、学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る選択科目		
キーワード	母子の健康と生活環境, 母子と栄養, 母子と運動, 代替療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	母子の健康促進, 健康逸脱を予防するための生活環境の調整, 栄養と運動, 代替療法について教授する。		
授業の内容	母子関係を支援するケア(院内助産所での取り組み) 親子関係を支援するケア(NICUでの取り組み) 母子と栄養 周産期の代替療法 母子をとりまく生活環境		
成績評価の方法	演習参加状況, 課題レポートにより総合的に評価をする。		
テキスト	助産学講座3・7・6・8, 医学書院		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	親子関係発達論		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 美香 [非常勤講師]		
研究室の場所	岡山大学教育学部		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	各回の講義では、教員側からまず取り扱う内容に関して教授した後、その内容をふまえて受講者とのディスカッションを行う予定である。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件			
免許等指定科目	助産師国家試験受験資格に係る選択科目		
キーワード	母子関係, 父子関係, 家族システム, 発達		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	親子関係(母子, 父子), 家族関係の形成とその発達過程について教授する。また, 母性意識, 父性意識の形成過程及び役割遂行への支援と課題について教授する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族とは—現代家族にみられる特徴—</li> <li>2. 家族関係における発達</li> <li>3. 母親になるということ①—妊娠期の女性—</li> <li>4. 母親になるということ②—出産後の女性—</li> <li>5. 父親になるということ—男性の場合—</li> <li>6. 子どもの発達の基盤としての家族</li> <li>7. 子どもと親の関係にみる発達</li> <li>8. 親子関係における心理社会的な諸問題</li> </ol>		
成績評価の方法	ディスカッションへの参加状況(30点) およびレポート課題(70点)		
テキスト	助産学講座4, 医学書院家族心理学 中釜洋子ら著 有斐閣ブックス その他, 講義中に適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回の講義におけるディスカッションは受講生の方が主役です。学部で学んだことを生かしながら, 各回のテーマに沿って, しっかり自分の意見を述べてほしいと思います。正しい意見が何かではなく, 自分の考えを明確にし, まわりの人にわかりやすく伝えていくことも学びの要素の一つと考えています。		